

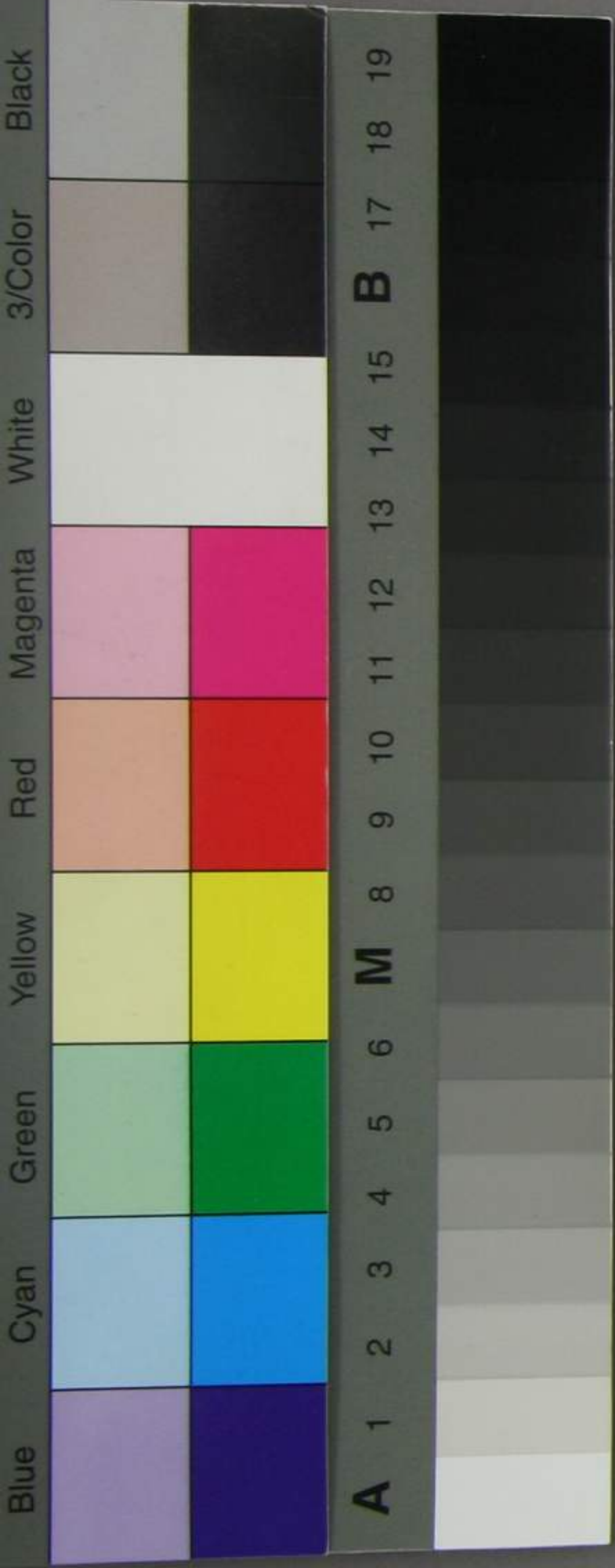
1414  
A4219  
1



留學生ヲ海外ニ派遣スルノ理由

留學生ヲ海外ニ派遣シ高尚ノ學科ヲ修得シ

其遠奥ヲ究極セシメ以テ人材教育ノ基礎トナスハ  
吾人ノ深く冀望スル所ナリト雖モ獨リ其資費ニ於  
テ巨額ノ金負ヲ要スルカ故ニ目下容易ニ施行ス可  
ラサルノ困難アルヲ奈何セシ然リ而シテ留學生派遣  
ノ舉ハ其結局ニ於テ著大ナル成果ヲ収ムルノ利益  
アルハ之ヲ遷ニ廢棄スルハ却テ策ノ得タルモノニ非ス  
姑ク東京大學ニ就テ之ヲ言ヘハ既ニ其卒業ニ屬セ  
ル儕輩中最俊秀ナル者ヲ遴選シテ海外ニ派遣シ各





其専門ニ從事セシメ熟達ノ時来リ其所以温ヲ齎ラ  
シテ歸朝スルニ及テハ從前外國人ノ一夥ニ據有セシ教  
員ノ地位ヲシテ逐次邦人ノ占斷スル所トナラシムル  
ノ好機ニ會スルヤ必セリ然ラハ則我大學獨立ノ精  
神ヲ振作シ更ニ昭代ノ文運ヲ贊助スルノ効蹟ヲ見  
ルニ至ラン又財政ノ一方ヨリ之ヲ觀ルモ大學教員ノ地位  
ハ多年間専ラ外國人ニ倚賴セシヲ以テ之カ諸般ノ供  
給ニ消却スル所ノ金員ハ實ニ驚クヘキノ事實ヲ現  
セリ試ニ明治十年七月ヨリ明治十一年六月ニ至ル會計  
年度ヲ以テ東京大學中ニ招傭スル外國教員ノ給

料

旅費及居館營繕  
等ノ費用ヲ除ク

ニ消却セシ所ノ金員ヲ計算スルニ金九

萬八千貳百七拾九圓五錢八厘ニシテ之ヲ大學ノ歳費金  
貳拾八萬貳千參拾五圓四拾五錢八厘ニ比例スレハ三分  
一強ノ多キニ居レリ倘シ將來漸ク外國教員ヲ解謝  
シ邦人ヲ以テ其地位ニ易フルニ及テハ其費額増減  
ノ相距ル果シテサホナラサルヘシ豈國用節減ノ一要  
部ト謂ハサルヲ得ンヤ曩ニ海外留學生改正ノ處分  
アリシモ畢竟此主義ニ外ナラス爾後稍其功效  
ヲ顯ハセルモノアリ故ニ留學生派遣ノ舉、邊ニ廢  
棄ニ付セス若干ノ人員ヲ限リテ暫ク此一路ヲ存シ以



114  
A 4219  
2

各國貸費留學生明細表 明治十二年七月一日調											
國名	學科	年限	歸期	姓名							
米國	化學	明治八年八月ヨリ 滿五年	明治十三年八月	長谷川芳之助							
全	全	全	全	南部球吾							
全	全	全	全	松井直吉							
全	全	全	全	原口要							
全	全	全	全	平井晴次郎							
全	全	全	全	三浦和夫							
全	全	全	全	小村壽太郎							
全	全	全	全	菊地武夫							
全	全	全	全	齋藤脩一郎							
英國	化學	明治九年八月ヨリ 滿五年	明治十四年八月	杉浦重男							
全	全	全	全	関口清景							
全	全	全	全	櫻井錠二							

大正十一年四月

テ其成果ヲ獲ンコトヲ企期ス



獨	全	全	全	佛	全	全	全	全	全	全	全	全	
國				國									
鑛	全	全	物	諸	工	化	法	全	工	全	全	法	
山			理	藝	學	學	學		學			學	
學			學	學	學	學	學		學			學	
	明治十二年滿三年	全	滿五年 明治九年八月ヨリ	明治八年九月ヨリ 滿五年	全	全	明治十二年滿三年	全	全	全	全	全	
	明治十年七月病 氣三付帰朝	明治十五年	明治十四年八月	明治十三年九月	全	全	明治十五年	全	全	全	全	全	
	安東清人	寺尾壽	山口半六	沖野忠雄	古市公成	石黒五十二	高松豊吉	河上謹一	谷口直貞	増田禮作	向坂寛	畠村輝彦	入江陳重

計貳拾五名  
内貳名帰朝  
殘貳拾三名